
色のない世界

藍しゃま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色のない世界

【Zコード】

Z8770E

【作者名】

藍しやま

【あらすじ】

まだ肌をなぐる風が少し冷たいような春先の3月、16歳を迎える前に柄澤驟雨は突然引っ越す事になつてしまつ。別れを告げる暇なく辿り着いたのは絵に描いたような田舎だつた。新たな土地を前に散策をする彼は一人の少女と出会い、日に包帯を巻いた、一人の少女と。

春先、別れ

「シユウ・・・・・・」

揺れるバスの中、後部の大人数用の座席に座る女性が隣にいる少年に語りかける。

「貴方には悪いと思つて、でもこいつするしかなかつたの」少年は答えない。窓の外を流れる景色をただ見続けていた。生い茂る緑の木々、駅のホームくらいに広い水が張つたダム、所々が崩れているアスファルト。

それらの連想が辿り着くのは、彼らの行き先である菜沢市郊外であった。

急速な発展を遂げた菜沢市とは裏腹に、今も尚発展することなく彼らの「今」がそこに存在している。

彼はその光景を一度見たことがあった。一年前、友人達と共に夏休みを利用してキャンプをするために訪れた時だ。

「バカ・・・・」

思い出から帰還した少年は、窓の奥にいる女性に呟いた。

「母さんのせいじゃない、しかたがないんだ。判つてるよ」母と呼ばれた女性は、ただ何度も頷いた。よく見ればやつれたかもしれない。数週間前と比べると、まるで玉手箱でも開けたかのような変わりようだ。

しかたがない、これもしかたがないんだ。

驟雨は自分に言い聞かせながら、先程の思い出を書き消した。

父は先日まで大企業に勤めていた。それも部長という地位に。それが今ではフリーターという職業に就職したらしい。どうやら大

規模な偽装が発覚したらしく、会社は自肅倒産となつた。

無論父が就職する前から行われていた偽装も、今ではそれを行つていた本人は気楽に老後生活を送つてゐる。少なくとも発覚さえしなければ、皆そつなるはずだつたろう。

父が部長の位置を落とされ、養われる事ができなくなつた我々は母の実家に住むこととなつた。

母と自分は一足先に行つて荷物の整理等をし、妹は友人に別れを告げてから合流とか。

長男として、妹と同じ行為を強請ることなどできなかつた。それに今、生氣の抜け落ちた母を困らせたくないのだ。

多少なりとも、この状況の後など予想がつく。いきなり帰省する家族など珍しくもないが、長くいると不審に思われる。近所で噂になる程度なら我慢がつく。ただし妹まで手が及ぶならそれもそれで対処しなければならない。子供のイジメのネタなど日常生活から漏れ出しているものだ。

この状況下で唯一救いだつたのが、母方の実家が郊外にあることだつた。友人と一度訪れた事のある場所なら少し不安が軽減される。それに悪い所ではなかつた。

川があり林がある。それだけあればいい。

ただ友人との思い出以外にも一つ、出来事があつた。それは優しく接してくれた少女だ。

麦わら帽子にワンピースがよく似合つていた少女。

その時は友人と逸れてしまい、道も判らないまま夏の暮れを川の近くで佇んでいた時だつた。

こちらの顔を見るなり「何かお困りではないでしょうか」と話しかけてくれた。

道を尋ねると、丁寧にも一緒に同行し案内までしてくれたのだ。無事友人と会えるや否や、自分の家に泊まつていかないか、と言うの

だ。

テントがあると言いつつも、顔に似合わず強固な性格らしく「危険ですから」と半ば無理やり泊めさせてくれた。

次の日、別れ際に渡した安物の指輪。5000円程度の物だったが、値段以上に喜んでくれていた。

もしかしたら。

そんな期待が、今の自分を支えていた。

不安と絶望に駆られる自分を、ほんの僅かな光として導いてくれている。

会いたい。今度はお礼を言いたい。だから、恐れていない。この状況を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8770e/>

色のない世界

2010年11月27日06時02分発行